

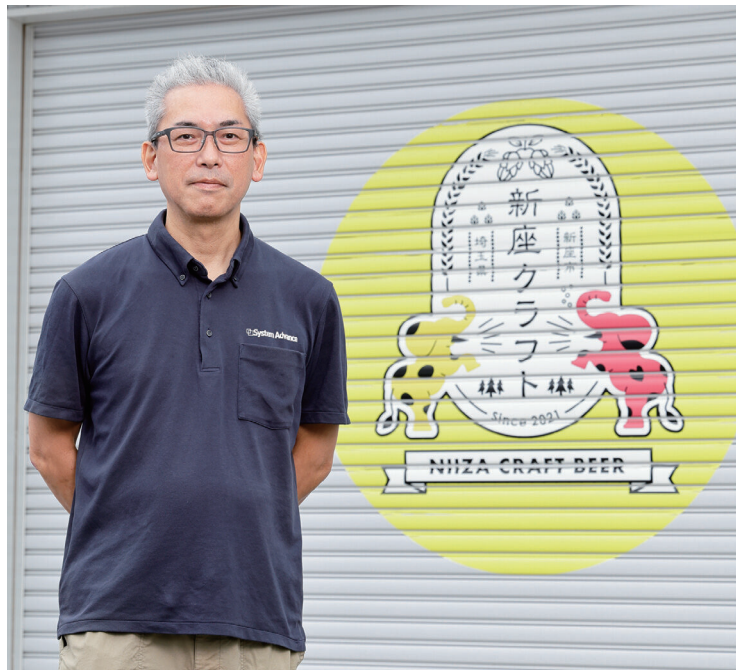
新座市初のビール製造事業に参入
「新座クラフト」醸造長

中嶋康長さん

にいざびと

重量挙げ夏期五輪5大会連続出場
いちごウエイトリフティング部コーチ

三宅宏実さん



収益性を上げるエコシステムの構築で「食品ロス削減などSDGs(地域の持続的発展)にも貢献したい」と話す中嶋さん

なかじま・やすなが 静岡県清水町出身。地元農協勤務を経て、当時沼津市にあったシステムアドバンスの関連会社に技術者として入社。2019年クラフトビール事業を立案、21年に「新座クラフト」を立ち上げた。現在は醸造長を務める。50歳。



新座市公認のブランド品に仲間入りした新座クラフトのオリジナルビール。左からIPA(ラベル黄色)、ペールエール(橙)、ヴァイツェン(白)、ヘレス(青)の4種類

「野火止用水の深井戸水」を25%含有。過去には県内2番目の生産量を誇る秋冬ものニンシンの葉を香り付けに使ったこともある。開発も独りよがりではない。「いかに飲ん

地産地消を

商品に使用する水は地元「野火止用水の深井戸水」を25%含有。過去には県内2番目の生産量を誇る秋冬ものニンシンの葉を香り付けに使ったこともある。開発も独りよがりではない。「いかに飲ん

「新座の名を全国、さらには世界に広めたい。いつか新座市イコール新座クラフトと

「ビール」で紡ぐ地域の未来

呼ばれるような存在になれたら」
同市大和田の半導体フォトリソ加工工場「システムアドバンス」のエンジニア、中嶋さんに新規事業開発の特命が下されたのは今から約6年前。会社からは「(目を酷使して)ベテラン社員が長く働き続けられる仕事を作っ

感謝の思い

同社は元々、事業者相手(BtoB)のバリバリの技術者集団。「どうせやるなら、

消費者向け事業(BtoC)に挑戦してみたい」。中嶋さんは大好きなビールで地域を盛り上げようと経営陣にクラフトビール事業の参入を提案した。外回りの経験もなかったが、持ち前の好奇心と何事もやり抜く力で原材料や工場設備の調達、酒造免許の取得など全て自力でやり切った。

日本人にはすっかりしたのだ。このラガービール(ピルスナー)が定番。後発のクラフトビールで「新座らしさ」をいかに打ち出すか。所沢市内のクラフトビール工場の協力を得つつ、2021年7月、自社ブランド「新座クラフト」が誕生。ロゴやホームページ制作は地元在住のデザイナーに依頼、ラベルも市内の印刷会社に発注した。

でも「もう一歩」。市場調査も欠かさず、将来は全て地元産で賄うのが目標だ。今年2月にスタッフが新たに1人加わり常時2人体制になった。初年度約2千円だった販売量は今年は8千円を超える見通し。ふるさと納税の返礼品にも加わり、4月には食の魅力を伝える市の「新座ブランド」に認定された。

ほかにも立教大、十文字学園女子大との共同開発や東武線の新型特急内での特別販売など次々とオファーも舞い込んでいる。「地元で愛され、そして市外からたくさんの方がビールを求めてこの地を訪れる。そんな好循環につながれたら」。中嶋さんの歩みは止まらない。

指導者と育児「一緒に学ぶ」

5大会連続の五輪出場を果たし、重量挙げ日本記録保持者の三宅さん。「地元新座の

皆さんの声援があるから頑張れた」と、147センチの小柄な体格からは想像できないパワーと技術を武器に世界の舞台でしを削ってきた。現在は指導者として後任育成にまい進しながら、結婚、出産を経て育児との両立を図る。

友人らとアスレチックで遊んだ野火止公園は思い出深い場所の一つだ。「新座は緑が多くて自然が豊か。帰ってくる」とほっとします。

結婚後は夫(中山陽介さん)の故郷・山梨に住居を移し、平日は東京に勤務し子どもを実家・埼玉に預ける3拠点生活を送る。9月中旬には

第2子を出産した。原点は2000年のシドニー五輪。当時中学3年生の三宅さんは、この大会から五輪の正式種目となった女子重量挙げ55kg級日本代表の平良真理さんに憧れ、競技の道へ進むことを決意した。埼玉栄高

第2の挑戦

「力の競技に見えて技術、スピードが求められる。ダイナミックに見えて、実は繊細で、すごく奥が深いんです。こんなに夢中になれる競技、

人生で出会えない」。選手生活を終え、指導者、そして母としての道を走る三宅さんは、競技への思いをこう語る。

「これからは、これからです」と笑顔で未来像を描く三宅さん。第2の挑戦は、まだ始まったばかりだ。



新座市民総合体育館前で。体育館内には三宅さんの功績を称えて命名された「三宅宏実記念トレーニングセンター」がある

みやけ・ひろみ 新座市出身。東野小、第二中、埼玉栄高、法大卒。五輪では2012年ロンドンで銀、16年リオで銅メダル。21年現役引退。現在はいちごウエイトリフティング部コーチ、日本ウエイトリフティング協会常務理事。新座市観光親善大使。39歳。



2016年のリオデジャネイロオリンピック・女子48kg級では銅メダルを獲得。右は父で監督(当時)の義行氏(共同)

では、競技開始から1年足らずで全国高校選手権で大会記録を更新し優勝。一気に頭角を現し、以降は日本女子の重量挙げ界をけん引してきた。己の限界とバーベルに向き合い続けた21年間を支え、人生の基礎を築いてくれたのは、1968年メキシコ五輪で銅メダルの父・義行さん。練習場では監督と選手、師弟関係でありながら、家には競技の話は持ち込まない。近々、遠く、父がいたから大丈夫と思えた。何でも信じてやることを決めた。

それでも常に結果が伴うわけはない。08年の北京五輪後、けがが続いた三宅さんは家に置き手紙を残し、1週間沖縄でひとり自分をみつめ直したという。「自立の一歩だからと見守ってくれた。指導者に大事なのは忍耐力と心の持久力」。師としての父が、一つの指導者像となっている。

祝 新座市制施行55周年

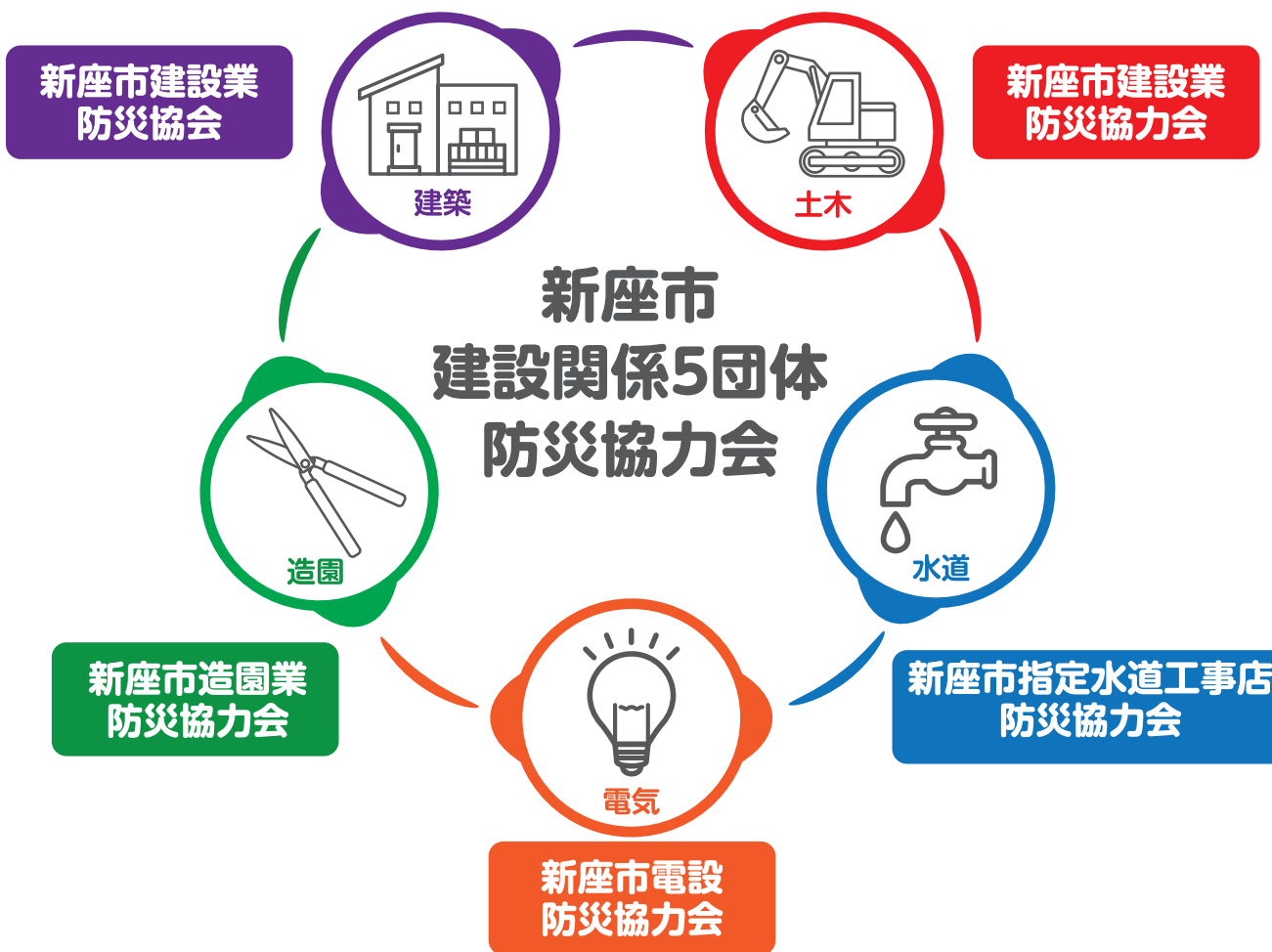
まっすぐ、あなたへ。

埼玉縣信用金庫

新座支店
新座市東北2-13-17
☎048-471-4337

新座市制施行55周年おめでとうございます

わたしたち5団体は、災害発生時の応急対策業務で
新座市と協力協定を結び万が一に備えています



祝・新座市制施行55周年 増木グループは新座市の輝く未来を応援します！

人々に感動を与える、建物づくりを目指して



MASUKI GROUP 増木グループ

MASUKI HOLDINGS 株式会社増木ホールディングス

Reform & Real Estate
株式会社増木

MASUKI
有限会社増木不動産コンサルティング

埼玉県新座市野火止3-10-7 ☎048-477-2007

